「クサビ」―最初の禍

分類なし

危険度：

生息数：

概要

この禍は現存しておらず、その物理的な痕跡も発見されていない。しかし禍という存在が人間社会の変化と共に進化・多様化することが分かっている以上、その始祖となる「最初」の禍の存在は古くから示唆されてきた。数多くの禍が発見・研究され、その進化や多様化の歴史がパズルのピースのように埋まってきている。現時点でその空白部分が表す事実を突き詰めた結果が本項である。よってこの禍の存在は証明されていない。しかし禍の起源について、現在この「クサビ説」以外に矛盾無く説得力のある説は発表されていない。全ての禍研究者53名のうち、47名がこの説を支持した。

また現在報告されている最古の禍は紀元前100年頃に確認されたカカシカである。しかしその当時には既に現在報告されるような多様な禍が存在しており、イゾナ科の禍でさえ既に数種類が確認されていた。禍の起源はさらに数千年の単位で遡ると考えられている。

生態

まず一つ注意して欲しいのは、クサビはただの「始祖」ではなく、全ての禍の「根源」であるということである。この禍の持つ生態は、この禍自体が進化と多様化の歴史の中に消えた現在でも、その子孫である全ての禍によって「全体で一つの生態」として維持されている。現在の禍の多様な生態は、全てこの禍の目的を確実に達成するために、その生物的リスクを分散させた結果であるという説を唱えた研究者もいた。

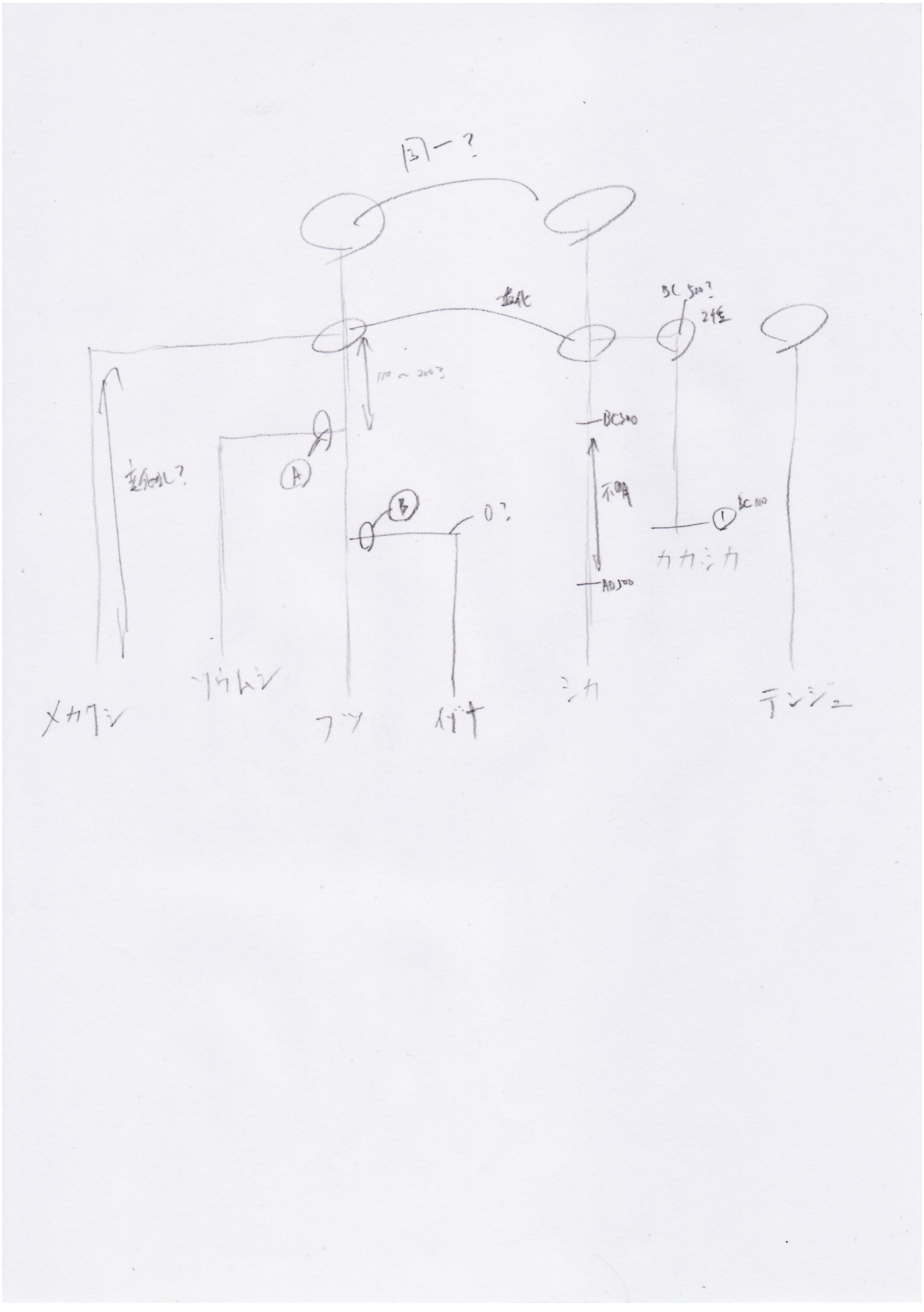
本題に入るが、この禍は社会生活を送る人間に憑き、その人間に「㈠社会の役に立つこと」「㈡法を犯したら罰を受けること」という二つの考え方を強制した。この方法やその際に摂取したものはまだ分かっていない。しかし原始的な禍に見られる特徴である脳への直接的な関与、そしてまた脳からの直接的なストレス等の摂取が行われたのではないかと考えられている。

クサビが人間へ与えた㈠㈡は共に現存する全ての禍の生態に反しない唯一のものである。よってこのように予想されたが、㈠と㈡はそれぞれ別の禍の生態であったのではないかという説も有力視されている。

解説

現代社会において、多数の禍に憑かれた患者は最終的に、「普段は社会生活に溶け込むが、条件がそろえば当たり前のように外道な行為を犯し、精神疾患とは判定されずに法で裁かれる」という状況になる。これはクサビに憑かれた人間そのものにも見える。最近ではそういった人間がストーカーや虐待・DVなどとして表面化しつつあることから、現代は禍の歴史的に見ても重大な時期であると考えられている。

ここで一つ注意して欲しいのは、前述の「精神疾患に判定されない」という部分であるが、これは犯罪を犯した人間だけでなく、精神鑑定をする側の人間達もこのクサビの生態の上に存在することで起こる現象である。クサビの生態は禍に憑かれた全ての人間に影響しており、ほぼ全ての人間が何らかの禍に憑かれている現在、鑑定する側の人間もクサビにより「精神疾患に判定されない」という事実を作らされているのである。つまり、クサビは「精神疾患」の定義さえも作り出した禍ということになり、それは同時に「健全な精神」の定義を作り出した禍ということにもなるのである。私が精神鑑定をする立場であったなら、虐待やストーキングを行うような人間は当然「病気」と判断してすぐに入院させるだろう。


メカジン
ソウムン
フツ
イヂト
シカ
カカシカ
テンジュ
A
B
1
不明